

淑徳魂を燃やし、アナウンサーとして挑み続けたい。

努力を重ねて拓いた アナウンサーの道。

愛知淑徳での6年間は、私にとって宝物です。信頼し合える生涯の友人たちと出会い、目標に向かって努力を惜しまない心「淑徳魂」を磨く、人生の土台づくりの日々でした。中学校ではバドミントン、高校では乗馬やテニスなどのクラブ・同好会活動に励み、水泳の特訓やマラソン大会などにも真剣に取り組んで、頑張り抜くことの大切さを学びました。だからこそ、高校生の頃から抱いていた「言葉を使う仕事に就きたい」との夢をあきらめず、アナウンサーの道へ駆け出すことができたと思います。

私は一つの放送局に縛られず仕事の幅を広げたいと考え、20代の頃からフリーアナウンサーとして歩み始めました。当時はテレビに勢いがあった時代。挑戦的な番組が多く、スタッフみんなでアイデアを

出し、視聴者を惹きつける番組を追求しました。フィールドキャスターとして各地から生中継した番組では、レポート中に海に落ちるなどハプニングも数知れず。そんな失敗もチャンスに変えて、番組制作を通して学び続け、自分を鍛え続けました。日本テレビでは20年以上情報番組のリポーターを務め、皇室や海外などの取材で走りまわる日々。高視聴率を獲得し、社長賞を受賞したこともありました。さらに、ラジオなど多彩な仕事にも挑み続け、今年4月からは週刊新潮での連載企画「ウェルビーイング探訪記」がスタートしました。

愛知淑徳での日々が 自分を支え続ける。

よりよい番組をつくるには、さまざまな人との協働が欠かせません。協調性はもちろん、自分の意見をしっかりと伝える姿勢

も大切です。元々、一人っ子で人との距離が分からない私でしたので、そうした人との関係を築く術は、愛知淑徳で学びました。学園祭や体育祭などをみんなで盛り上げ、それぞれが得意なことでの自分の役割を果たし、何かあればお互いに助け合う。学校生活で積み重ねた一つひとつの経験が、あらゆる仕事でのチームワークにも通じると感じます。

先輩の皆さんも、愛知淑徳での毎日を友人たちと楽しみ、今やってみたいこと、思いやり飛び込んでみてください。夢をあきらめず、後悔のないよう努力してください。私もテレビやラジオの世界で何事にも果敢にチャレンジし、一生懸命に突き進んだことで、アナウンサーとして自分らしく力を発揮してきました。失敗すること、思い悩むことも、すべて無駄なことではなく、次に高く飛ぶためのステップです。自分を信じてまずはチャレンジしてください。



高1のとき、学園祭のステージ企画に出演し、一緒に歌った友人たち。その一人が、シンガーソングライターの八神純子さんです。



長年、ラジオの仕事も大切に、パーソナリティとして情報を発信するだけでなく、プロデューサーとして番組企画にも携わっています。

キャスター、リポーター 服部 恭子さん

愛知淑徳高等学校を1976年3月に卒業。短期大学卒業後、フリーアナウンサーの道へ。テレビやラジオの番組に数多く出演すると共に、アナウンスの専門学校で講師を務め後進を育成するなど、多方面で活躍中。